場所　山梨県南都留郡道志村

面積　29ha



活動目的

スギ・ヒノキの人工林を間伐して自然に循環する混交林に遷移させ、水源林の涵養と地域の生物多様性保全に貢献する。

また、年間を通じて自然観察会や農山村での暮らしなどををテーマにした企画を実施し、自然環境教育や地域活性化の拠点として醸成することを目的とする。

サイト概要

山梨県南都留郡道志村に位置し、スギ・ヒノキの人工林が中心であるが、一部雑木が混生する混交林。区域内に数本の細流や渓流が流れており、一部ワサビ田を復元している。

区域内は間伐等により植生遷移を促しているところであるが、ツキノワグマやニホンギツネ、ノスリの生息が確認されており、また区域周辺（隣接キャンプ場など）を含めると、希少な動植物や、里山に特徴的なムササビやオオムラサキも生息が確認されている。これらの動植物が生息可能な生物多様性豊かな環境となるよう区域内の管理を進めている。

土地利用の変遷

人工林と里山からなる山林区域で、1980年から一部は自然環境を生かしたキャンプ場として活用してきたが、2014年に養老の森を発足し、より広範囲の森林整備活動を本格化した。

サイト周辺の環境

山梨県南都留郡道志村の中間に位置し、区域内外に流れる細流・渓流が相模川支流の道志川に注ぐ。道志川から取水している横浜市が道志村面積の36%にあたる水源涵養林を持ち、対象区域とも隣接している。対象区域内外にはワサビ田や炭焼き窯の跡が残り、ワサビ田は森林整備活動の一環で一部復元。周辺は人工林や混交林がモザイク状に存在し、標高は600~700mだが一部ミズナラやブナも自生する。キャンプ場が複数隣接しており、休日はレジャー客で賑わう。

アピールポイント

・周辺地域を含め、希少な動植物や、ムササビ、オオムラサキなど里山に特徴的な生物を確認している。

・年間を通じて一般参加型の森林整備活動を実施しているほか、自然観察会（昆虫、水棲生物、野鳥）などのイベントを通じて次世代に向けた自然環境教育の場としても活用している。

・動植物の専門家らを実行委員に迎え、定期的なモニタリングを自主的に実施している。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

区域内には数本の細流や渓流が流れ、一部はわさび田を復元している。人工林だった区域は間伐等により植生遷移を促しているところであるが、ツキノワグマやニホンギツネ、ノスリの生息が確認されており、希少な動植物や、里山に特徴的なムササビやオオムラサキも生息が確認されている。これらの動植物が生息可能な生物多様性豊かな環境となるよう区域内の管理を進めている。

【主な植生】

スギやヒノキの人工林が中心であるが、一部ヤマハンノキやミズナラ、ヤマザクラといった雑木などが混生する混交林で、モミの巨木も存在する。林床付近には、ツルリンドウやミヤマナルコユリなどがみられる。川沿いにはケヤキやフサザクラなどが自生し、セリやミツバ、ツリフネソウなどがみられる。

【確認された主な動植物など】

＜植物＞
マルバスミレ、ヒトリシズカ、ツルリンドウ、ヒロハコンロンソウ等
＜哺乳動物＞
ツキノワグマ、カワネズミ、ムササビ、ホンドタヌキ、カワネズミ等
＜鳥類＞
ノスリ、オオルリ、キビタキ、ツツドリ、ミソサザイ、キセキレイ等
＜両生類＞
タゴガエル、アズマヒキガエル、モリアオガエル等
＜昆虫類＞
オオムラサキ、オオセンチコガネ、エゾハルゼミ、オニクワガタ、ムラサキトビケラ等



写真の説明：自動撮影されたツキノワグマ



写真の説明：設置した巣箱で確認されたムササビ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

定期的な森林整備により、間伐や林床整備を行い、水源涵養機能の維持に努め、間伐材はキャンプ場や養老の森整備や工芸品として利用している。このことは自然景観の保全にもつながり、エリア内を利用した文化や芸術を提供する場として、また自然観察会などにより触れ合う場としても提供している。水域ではワサビ田も復元し、食への提供も進行中である。

【主な植生】

スギやヒノキの人工林が中心であるが、一部ヤマハンノキやミズナラ、ヤマザクラといった雑木などが混生する混交林で、モミの巨木も存在する。林床付近には、ツルリンドウやミヤマナルコユリなどがみられる。川沿いにはケヤキやフサザクラなどが自生し、セリやミツバ、ツリフネソウなどがみられる。

【確認された主な動植物など】

ツキノワグマやホンドギツネ、ノスリなど自然度の高い森を象徴する種が生息する一方、ムササビやオオムラサキなどといった、里山に見られる動植物も見られ、希少な両生類や昆虫類が生息する水域の存在は、多様な動植物からなる生態系を確認することができる。



写真の説明：昆虫観察会のようす



写真の説明：約50年間埋もれていたワサビ田跡地を再生

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

スギ・ヒノキの人工林が中心であるが、一部雑木が混生する混交林である。人工林では間伐等により植生遷移を促している。区域内に数本の細流や渓流が流れている。

【確認された希少種】

これまでの調査において、環境省レッドリスト2020及び山梨県レッドデータブック2018の掲載種（要注目種を除く）として、12種（植物4種、哺乳類1種、鳥類2種、爬虫類1種、両生類1種、昆虫類3種）が記録されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
【管理計画の内容】 ・3月から11月の毎月1回、森林整備ボランティアとともに森ワークと称した整備活動を行い、人工林の間伐と整備、雑木の移植、草地の草刈りなど良好な維持管理を心掛けている。 ・雑木の移植に際しては、ニホンジカからの当該樹木保護のため、周囲を金網で囲い、森林整備活動の際点検を行っている。 ・前記の日程に合わせ、復元させたわさび田の整備を行っている。 【モニタリング概要】 ・植物や鳥類、両生爬虫類のモニタリングについては、専門家による年２回の調査をベースに、日常的な整備活動や各種観察会、昆虫調査などの中で随時確認している。 ・哺乳動物の生息状況については、糞や足跡などの痕跡により確認をしていたが、２０１７年からは自動撮影装置により生息状況を確認している。 ・「山梨県道志村昆虫調査目録-養老の森を中心として-」を養老の森設置５周年を記念して発行。昆虫類については発行後も毎月養老の森及び道志村内において調査を実施している。 ・２０２４年の養老の森開設１０周年には、昆虫だけでなく動物全般を網羅した第２報の発行を予定しており、生物多様性の状況を明らかにしていきたい。	**【モニタリング対象】** 植物、鳥類、両生爬虫類、昆虫 **【モニタリング場所】** 対象サイト区域内と周辺区域 **【モニタリング手法】** 対象サイト内で確認された動植物を記録。 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** 3~11月頃、専門家により年２回。整備活動や自然観察会で随時。 **【モニタリング実施体制】** 植物、鳥類、両生爬虫類は専門家による年２回の実地調査。 哺乳動物は自動撮影装置にて。